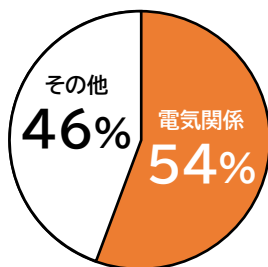


地震による電気火災を防ぐために 「感震ブレーカー」を設置しましょう

— なぜ必要？地震による火災の過半数は「電気」が原因です —



東日本大震災の火災原因は
半数以上が電気関連。

本震による火災111件のうち、
原因が特定された108件中、
過半数が電機関係の出火でした。

「感震ブレーカー」とは？

地震の揺れを感知して自動的に電気を遮断する器具です。不在時や避難時にブレーカーを操作できない場合でも、電気火災の防止に有効です。

— 我が家に合うのはどれ？感震ブレーカーの種類と特徴 —

分電盤タイプ(内蔵型)



【仕組み】内蔵センサーが揺れを感知し、ブレーカーを遮断。

【特徴】遮断までに3分間程度の待機時間があり、その間は照明(通電)が確保される。

【注意点】家全体の電気が止まるため、在宅用医療機器等を設置している場合は、バッテリー等の備えが必要。

【工事】電気工事が必要。

【費用】約5～8万円

分電盤タイプ(後付型)



【仕組み】外付けセンサーが揺れを感知し、既存の漏電ブレーカーを作動させ電気を遮断。

【特徴】内蔵型と同様に家全体の電気を遮断

【注意点】漏電ブレーカーが設置されている必要があり、分電盤の形状によっては設置できない場合がある

【工事】電気工事が必要。

【費用】約2万円

コンセントタイプ



【仕組み】コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、そのコンセントからの給電を停止。

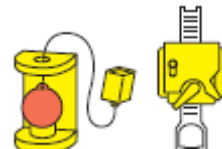
【特徴】作動の信頼性にばらつきは生じにくい。

【注意点】設置したコンセント以外からの電気火災は予防できない。

【工事】差込型は工事不要。埋込型は工事が必要。

【費用】約5千円～2万円

簡易タイプ



【仕組み】おもり玉の落下やバネの力で物理的にブレーカーのレバーを落とす。

【特徴】電気工事不要で比較的安価に設置できる。

【注意点】設置方法で作動の信頼性にばらつきが生じる。通電が一斉に遮断されるため、避難用の照明等の備えが必要。

【工事】電気工事は不要。

【費用】約2～4千円

— 設置する前に！知っておきたい注意点 —



停電の備えを万全に

夜間の地震による急な停電に備え、避難する際の“懐中電灯”や“足元灯”などを準備しましょう。



在宅用医療機器をご利用の方へ

生命維持に直結する医療機器がある場合は、停電時でも稼働できるようにバッテリー等を必ず備えましょう。



復旧時の安全確認

電気の使用を再開する前には、ガス漏れがないか、電気製品やコードが損傷していないかを必ず確認しましょう。



避難時は手動でもブレーカーをOFF

感震ブレーカーの設置の有無にかかわらず、避難する際には、ご自身でもブレーカーを切ることが重要です。



耐震対策とセットでさらに効果的

火災防止の対策に加え、自宅の耐震化や家具類の転倒防止と合わせて対策することで、より安全性が高まります。